

波と風

理念

思いやりのある
やさしい誠実な医療を
提供します

基本方針

1. わかりやすい説明による安心・安全な医療を提供します
2. 最新の知識と技術による質の高い医療を提供します
3. 地域医療機関との連携を強化し、地域社会の発展に貢献します
4. 高度な専門性をもつ医療人の育成に努めます
5. 医療資源を適正に活用し、健全な経営を実践します

CONTENTS

- 2～3P 診療科紹介(消化器内科)
- 4P 診療科紹介(放射線腫瘍科)
- 5P 診療科紹介(血液内科)
- 6P 職場紹介(手術室)
- 7P 職場紹介(4A病棟)
- 8P 職場紹介(管理課)
- 9P 職場紹介(医療技術研修センター)
- 10P 防火訓練を終えて
- 11P 第72回広島県看護学生スポーツ交流大会 / 第15回広島・呉地区大会を終えて
- 11P 「スポーツ交流大会in呉」を企画・開催して
- 12P 第56回学校祭を終えて
- 13P ナイチンゲール生誕祭実行委員になって
- 14P 緩和ケア研修会を開催して
- 15P リフレッシュ研修の開催について
- 16P 永年勤続表彰
- 17P 「令和5年度呉医療センター特定行為研修」開講式の開催について
- 18P うちの部署の接遇キラリさん
- 19P 連携医療機関紹介(早川クリニック)
- 20P 我が家のスターたち、寄付について、編集後記

※紙面上の一部写真は撮影のためマスクを外しております。
撮影終了次第、マスクを着用しております。

消化器内科

地域医療連携部長
(消化器内科科長 河野 博孝)



消化器内科医師は11名が所属し、消化管（食道・胃・小腸・大腸）、肝臓、胆膵疾患を担当しています。診療内容は悪性疾患が中心となりますが、三次救急救命センターも併設しており、消化管出血や肝不全、胆道系感染症など重症疾患にも積極的に対応しています。

スタッフはそれぞれの専門分野を受け持っており、消化管（食道、胃、小腸、大腸）を桑井、楠、田丸、水本医師が、肝臓を河野、寺岡医師が、胆膵を山口医師が担当し、それぞれが専門性の高い正確な診断と最先端の治療を行っています。

消化管領域（担当：桑井、楠、田丸、水本）

食道、胃、大腸の早期癌に対する内視鏡治療には特に力を入れています。中でも内視鏡的粘膜下層剥

離術（ESD）という治療法でこれまで多くの症例を治療しています。特に難易度の高い大腸腫瘍に対するESDでは、確実性・安全性の高いハサミ型ナイフを用いてこれまでに500例以上経験し、非常に良好な成績が得られています。2022年には消化器内科分野ではトップクラスであるアメリカ消化器病学会雑誌（American Journal of Gastroenterology）や、消化器内視鏡分野では最も権威のあるアメリカ消化器内視鏡学会雑誌（Gastrointestinal Endoscopy）に治療成績が掲載されました。

また、閉塞性大腸癌に対しても積極的に内視鏡的大腸ステント留置術を行っており、2021年9月までに200例以上治療しております。また新規ステント開発にも携わっており、最新の機器を一般使用に先駆けて使用することも可能となっています。当院



では欧米のガイドライン作成者などとのネットワークで世界レベルの最新の知見に基づく治療を行っております。

良性疾患では、食道通過障害の原因となる咽頭食道憩室（Zenker憩室）に対する内視鏡治療も行っております。当院で2018年にこの治療法を国内で初めて導入し、本邦初の成功例として報告し、2020年7月には「先進医療」として施行できる施設として厚生労働省の承認第一号を受けました。Zenker憩室は比較的稀な疾患であるため認知度は低く、たとえ診断されても手術しか治療がないと考え経過観察される症例もこれまででしたが、この新しい内視鏡治療が普及すれば多くの患者さんの利益になることが期待されます。

日本では炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）患者数が増加しており、これらに対する診断・治療にも力を入れています。当院では最新の機器や検査（カプセル内視鏡、バルーン内視鏡、MRエンテログラフィーなど）を取り入れて診療を行っています。また、近年新しい薬剤が次々と開発され選択肢が飛躍的に増えています。当院では国立病院機構のネットワークで、さらに新しい保険収載前の薬を用いた世界共同治験にも積極的に参加しています。薬剤治療以外にも血球成分除去療法や難治例に対する外科手術などの治療もあり、他科とも協力して治療を行っています（2019年より専門外来を開設）。最新の研究知見をもとに、患者さんに分かりやすく説明し納得していただける治療を目指します。

肝臓領域（担当：河野、寺岡）

肝炎（C型肝炎、B型肝炎、脂肪肝炎、アルコール性肝炎、その他肝炎）、肝硬変（食道静脈瘤、胃静脈瘤、門脈圧亢進症、腹水症、肝性脳症）、肝癌の診断と治療を積極的にすすめています。

2015年から導入されたC型肝炎の治療薬（DAA製剤）にて、当院でも500人以上の方がC型肝炎のウイルスを排除できました。その後7年経過しC型肝炎の方の肝癌発症は大きく減少しましたが、現在はアルコール性肝炎や脂肪肝炎からの肝癌発症が多くなっています。

当科では、肝癌発症のリスクがある方は各種画像

検査を定期的に行い、早期に発見することに努めています。早期であれば速やかに侵襲の少ないラジオ波焼灼術を行い、5日間程度の短期の入院期間で治療が行えます、最適な治療を選択できるように当院外科とも相談を行いながら治療選択を行っております。残念ながら進行した状態で見つかった場合は、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬を、患者様の状態を診ながら積極的に導入しております。また広島大学消化器内科が中心となる広島肝臓study group参加することで、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の有効な使用方法、副作用発現の現状をいち早く情報共有出来、実際の診療に役立てております。

胆膵領域（担当：山口厚）

当科では、膵疾患（膵癌など）、胆道結石（胆のう結石・胆管結石）、そして閉塞性黄疸などに対する内視鏡診断と治療に力を入れています。CT、MRCP、超音波内視鏡、ダブルバルン内視鏡、ERCP（内視鏡的胆膵管造影）、そしてPET-CTなどを用いて診療を行っています。また、膵癌の早期発見のため、リスクのある患者様に対して定期的なフォローを行っています。切除不能膵胆道がんにおいては当科で抗がん剤治療を行っています。抗がん剤治療のみでなく、栄養状態の改善・維持、疼痛除去、精神の安定などの全身状態の改善を念頭におき他部門（栄養科、薬剤科、歯科、精神科、緩和ケア科など）と積極的に連携し支持療法を行っています。食欲増進効果のあるアナモレリンも積極的に使用しています。

正確な診断を行い、患者さんの背景を踏まえた、できる限り適格な治療を提供するように努めたいと考えています。消化器内科救急診療に対してもこれまでと同様、積極的に取り組んでいきたいと考えていますので、今後ともよろしく願いいたします。

放射線
腫瘍科

放射線腫瘍科科長 幸 慎太郎



<放射線腫瘍科について>

放射線腫瘍科は「がん」など腫瘍に対する治療において、放射線治療を中心に関わっている診療科です。放射線治療は手術療法、化学療法と並ぶがん治療の3本柱であり、病巣部に放射線を集中して照射することにあり、がんの治療を行います。近年の放射線治療の進歩、高齢化と共にがん治療患者さんの増加により、放射線治療を受けられる患者さんは増加傾向にあります。

「切らずに治す」放射線治療は、特に前立腺がん、子宮頸がん、肺がん、喉頭がんなどは早期であれば放射線治療のみで90%以上の局所制御率があり、手術とほぼ同等の治療率と言われています。しかし、全がん患者さんのうち、放射線治療を受けられるがん患者さんの割合は欧米（アメリカ66%、ドイツ60%）と比べ日本では25%と低く、まだ充分がん治療において普及されているとはいえない状況のようです。

<診療内容・対象疾患>

乳がん、肺がん、前立腺がんなど、ほとんどすべてのがんが放射線治療の適応となります。がんを根治的に治療する目的で行われる根治照射、症状を緩和する目的で行われる緩和照射など、がん治療の様々な場面において放射線治療を行っています。なお、甲状腺眼症やケロイドなど良性疾患においても放射線治療の適応となることがあります。

<当院の特色>

当院の放射線治療は、放射線治療機器 トモセラピー（図1）を用いて行っております。トモセラ



図1 高精度放射線治療専用機のトモセラピー

ピーは高精度放射線治療専用装置であり、中国四国地方で初めて当治療機を導入し、2012年3月より治療を開始致しました。また、2019年4月より放射線治療医増員により常勤医2人体制となり、正式にIMRT（Intensity Modulated Radiation Therapy: 強度変調放射線治療）を開始致しました。同治療により、頭頸部がん、前立腺がん、脳腫瘍など様々ながんに対し、より副作用を軽減した治療が可能となりました。

加えて、当科では呉地区で唯一、ピンポイント照射（定位放射線治療）を行っており、転移性脳腫瘍に対し脳定位放射線治療、肺がんなどに対し体幹部定位放射線治療を行っています。同治療は外来治療も可能な副作用の少ない治療であり、わざわざ広島市内まで通院・入院することなく、治療を行うことが可能です。

また、血液がんなどに対する造血幹細胞移植の前処置として行われる全身照射におけるIMRTは日本で初めて当院で開始致しました。

<最後に>

当科では、内科、外科など多くのがんに関わる診療科の先生方と連携し、当科スタッフ（放射線腫瘍医、放射線治療技師、物理士、放射線治療看護師、事務員）がチームとして常に情報を共有し、患者さんに最良の放射線治療を提供できるよう心がけ治療を行っております。（図2）

他の治療方針はあるのか、放射線治療の話だけでも聞いてみたい、などご心配事ありましたら遠慮なくご相談ください。



図2 放射線腫瘍科スタッフ

血液内科

血液内科科長 伊藤 琢生



①血液疾患全般の診療

当科では鉄欠乏性貧血、免疫性血小板減少症のようないわゆる血液良性疾病から白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫等の血液悪性腫瘍にいたるまで、血液疾患全般の診療を行っています。また、近年新規に開発された分子標的薬をはじめとする新規薬剤も積極的に応用し、治療成績の向上をめざしています。

造血器腫瘍の治療

1. 化学療法
2. 造血因子
3. 造血幹細胞移植
4. 分化誘導療法
5. 分子標的療法
6. 遺伝子治療
7. 副作用とその対策



②造血幹細胞移植治療の進歩

造血幹細胞移植は血液疾患の根治が得られる可能性のある強力な治療法ですが、一方で副作用も強く、これまでは65歳が移植適応年齢の上限とされてきました。しかし、呉地域は全国でも最も高齢化が進んだ地域であり、65歳以上の高齢者の血液患者数も急速に増加しています。そのため、より高齢の年齢層にも移植のニーズが広がっており、今後はますますその傾向が強くなると予想されます。当科では移植の前処置と呼ばれる放射線治療や化学療法を工夫するなどして、より安全性の高い移植法を目指して努力しています。



骨髄採取の様子

③チーム医療の推進

当科のスタッフと病棟看護師に加えて、薬剤師、心理療法士、理学療法士、歯科衛生士等の多職種に参加していただくカンファレンスを定期開催し、移植症例、緩和期症例などについて意見交換しています。移植医療はまさに全人的医療の実践が行われる医療です。頭から足先まで身体のあらゆる合併症に対処しなければなりません。また、患者さんの精神的なケアも重要な治療の一環です。医師だけでは到底成立しない医療であり、看護師をはじめ各種スタッフの連携がかかせません。チームの連携がやがて質の高いきめ細やかな患者さんへのケアに繋がっています。



末梢血幹細胞採取の様子



造血幹細胞移植の流れ



多職種カンファレンスの様子



手術室

看護師長 白石 久恵



手術室は一般手術室7室、無菌手術室1室の8室があり、15診療科の手術が行われています。令和4年度の総手術件数は緊急手術438件を含む4883件でした。手術室看護師は2交代制勤務をしており、常に麻酔科医が待機し、24時間体制で緊急を要する帝王切開を始め、呉医療圏唯一の三次救急病院として様々な緊急手術に対応しています。

手術を受ける多くの患者さんは不安や緊張があります。それらが少しでも軽減できるよう、手術室看護師は、術前に患者さんの病室へ行き、手術に対する不安などのお話をお伺いし、チーム全体で支援できるよう努めています。また、手術中に起きることを予測した上で安全に手術が受けられるよう、手術に必要な機器や手術室の準備を行い、医師と事前に打ち合わせを行います。

手術中は、心理状況や環境因子により手足の血管が収縮しており、身体の中心部に熱が集まっている状態で麻酔がかかるため低体温となります。そのため、保温に努めたり、また、同一体位から考えられる皮膚トラブル等を防止したり、チームの一員として麻酔科医・外科医等と協力し手術が安全に進行できるようサポートしています。

術後は、病棟や外来の看護師と情報共有を行い、回復支援にも協力しています。

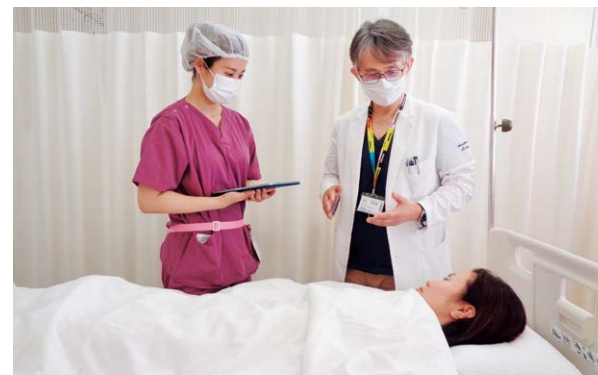
日々医療技術の進歩がある中、手術室看護師として、様々な手術に対応できるよう、定期的に勉強会やシミュレーション



手術中の様子

ントレーニングを行っております。

令和5年度より、麻酔科医・看護師・薬剤師・臨床工学技士の多職種で構成された医療チームによる回診「APS (Acute Pain Service)」を開始いたしました。APSとは、全身麻酔後の硬膜外麻酔や経静脈的自己調節鎮痛法 (IV-PCA) を行っている患者さんを対象に、手術後の痛みを軽減し、呼吸器合併症を少なくし、早期離床（早期に起き上ったり歩いたりすること）を目指しています。



APSの様子

手術室では、看護師の表情が帽子とマスクでほとんど見えませんが、スタッフ一同笑顔で、患者様の気持ちに寄り添い、安心して手術が受けられるよう、日々努力してまいります。



手術室の職員



4A病棟

看護師長 森原 めぐみ



4A病棟は、産科・婦人科・乳腺外科の病棟です。助産師24名、看護師16名、看護補助者4名が勤務しています。当院は、地域周産期母子医療センターの指定を受けており、産科、小児科、麻酔科と連携して24時間体制で分娩に対応し、年間約400件の分娩を行っています。新型コロナウイルス感染症が蔓延した約3年間は、母親と児だけの入院、出産となり、家族を形成する大切な時間がもてない状況でした。しかしながら、5月にマタニティクラス（旧母親学級、両親学級）や立ち合い分娩を再開し、本来の家族の姿が病棟に戻ってきました。赤ちゃんを囲む家族の構成は様々ですが、健やかな家族の形成に向けて支援しています。出産経験に関わらず、新生児にとっては母乳を飲むことは初めてのことです。入院中は助産師が母乳回診を行い、その母子にあった授乳方法などの指導を行っています。退院後では母乳外来を週2回設けて、母乳育児についての悩みに応えられるようにしており、継続した母乳育児支援を行っています。近年は、ハイリスク妊産婦においても外来、地域の保健師と連携し、継続して関わっています。妊娠・分娩・育児も多様化している今、私たちの能力向上のため、アドバンス助産師、新生児蘇生Aコース (NCPR) を取得し、対応できるように研鑽しています。グレードA帝王切開についても、シミュレーションを繰り返し、安全な分娩ができるように訓練しています。また、附属看護学校だけでなく周辺の看護大学、看護



母乳回診場面

護学校の母性看護学実習や、助産学実習を受け入れ、次世代の人材育成に努めています。妊娠中から分娩、出産後の生活、育児において、母子とともに家族で安心して安全に過ごしていただけるように取り組んでいます。

婦人科、乳腺外科では、年間約500件の手術療法、年間約300件の化学療法のほか、放射線療法などで入院される患者の看護を行っています。医師・看護師・病棟薬剤師・ソーシャルワーカー等の医療チームでカンファレンスを行い、患者にとって最善の治療やケアを提供できるように心がけています。がんの手術後ではリンパ浮腫の症状が現われる場合があります。4A病棟には、リンパ浮腫ドレナージセラピストの資格を持つ看護師3名が在籍しており、週1回の外来でケアを行っています。看護師は、セラピストとともに入院中に日常生活指導を行い、リンパ浮腫による合併症予防に努めています。また緩和ケアチームと協働し、苦痛となる症状を和らげ、患者にとって、自分らしい生活を送ってもらえるように取り組んでいます。

ライフサイクルのあらゆる段階にある女性、それとともに生きる家族とそれを支える地域の皆さんが、健やかな生活を過ごせるように助産師、看護師一同、精進しています。





管理課

管理課長 桑本 貴幸



管理課は、庶務係・職員係・厚生係・給与係の4つの係に分かれており、総勢36人の職場です。管理課という名称のとおり、職員の皆さんが働きやすい労働環境を実現できるよう管理することを目標としています。業務は、職員皆さんへの対応のほか電話交換をはじめとする外部の方への対応が中心となります。職員数が大変多い（7月1日現在で1,287人）ので、毎日のように様々なイベント（トラブル？）が発生していますが、適切な対応を心がけて業務にあたっています。

各係の業務をご紹介します。

管理課の入口正面にある庶務係では、電話交換、郵便物等の取扱い、職員研修、謝金、出張関係、病院外活動、図書室管理、敷地内の環境整備、庁舎管理を担当しています。その他どこにも属さない業務（何でも屋ではありません）も含まれており、幅広く対応することが求められる係です。

その右隣の職員係は、休暇関係、健康診断、労働災害、勤務時間管理を担当しています。勤務時間管理システムについては、機構病院の中で先行導入病



院として早くからICカード打刻に切り替わっており、職員係の負担軽減に繋がっています。時々、打刻データが取り込まれない不具合が発生しているのが玉に瑕です。

その右隣の厚生係は、共済組合保険の加入・脱退、傷病手当金などの各種手当金給付や人間ドック補助など職員皆さんの福利厚生に関わる業務を担当しています。昨年から非常勤職員も共済組合に加入することとなり、対応件数も増加しています。

一番奥側の給与係は、給与、採用・退職等の人事異動にかかる各種手続きを担当しています。特に給与については正確な支給が求められる係ですので、適

切な支給を目指して業務にあたっています。

管理課の業務に関しましては、日々ご理解ご協力を賜り、この場をお借りして感謝申し上げます。これからも職員の皆さんが働きやすい職場環境となるよう、迅速かつ適切な対応を心がけて病院運営に貢献していきたいと思います。



医療技術研修センター

医療技術研修センター部長 山崎 琢磨



呉医療センター南側の附属呉看護学校の隣に呉医療技術研修センターがあります。当センターは平成20年4月をもって閉校となった附属リハビリテーション学院の校舎跡の有効利用を目的として、佐治文隆名誉院長が発案されたスキルアップ・ラボ構想に端を発しています。これを引き継ぎ、平成21年に模擬病棟・在宅看護ケア室などを使用するシミュレーション教育研修施設として準備を進め、平成22年5月に運用を開始しました。歴代センター長のご尽力により継続運用され、今年で開設14年目を迎えました。昨年度もCOVID-19の影響は及んだものの、利用者数は次第に回復してまいりました（表1、2）。

令和4年度 部署別利用状況

部署	回	人数	延べ人数
総合診療科	12	120	4160
内科	10	100	3300
外科	8	80	2640
小児科	5	50	1650
産婦人科	3	30	990
皮膚科	2	20	660
泌尿器科	1	10	330
耳鼻咽喉科	1	10	330
眼科	1	10	330
放射線科	1	10	330
検査科	1	10	330
薬剤科	1	10	330
看護部	1	10	330
その他	1	10	330
合計	45	450	14850

表1 令和4年度 部署別利用状況

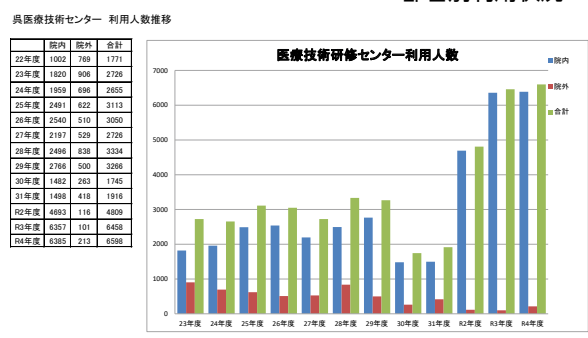


表2 呉医療技術センター 利用人数推移



呉臨床ハンズオンセミナー



呉臨床ハンズオンセミナー（気道確保）



新採用者研修（BLS挿管助）

り組んで参りたいと存じます。

【研修教育器材】

内視鏡手術トレーニング室

内視鏡手術シミュレータ
(virtual reality simulator, LapVR®)

一般病棟、ICU、NICU、分娩室などの模擬病棟、カンファレンス室、講義室

高度患者シミュレータ（シムマン3G®）

このシミュレーターでは、フィジカルアセスメント、モニター、急変時の対応に必要な一次心肺蘇生法・AED使用法、モニター付き除細動器の使い方、二次心肺蘇生法、緊急対応、超音波ガイド下中心静脈穿刺などさまざまな研修を行えます。

在宅看護ケアトレーニング室

入浴やトイレ介助、喀痰吸引やストーマケアなどの日常生活援助技術の研修が可能です。

院内コースに加え、学会などが主催する各種コース、たとえば日本救急医学会認定ICLS、ISLSコース、外傷治療JPTEC、JATECコース、アメリカ心臓協会のBLSやACLSコースなどを積極的に招致します。当施設は当院のみでなく、他の機構病院、近隣の病院、看護学校、大学看護学部、薬学部の方々と、呉地域の開業医の先生や看護師を始め、多くの医療関係者にご利用いただき、呉二次医療圏の医療を充実させることに役立てることが出来ればと考えています。

今後はウィズコロナ下での研修活動の再開が見込まれ、オンライン研修も含めた当センターの役割が増してくることが期待されます。院内のみならず地域のニーズにお応えできる実技研修の場を提供できますよう取



センター WEBサイト

ホームページ <https://kure.hosp.go.jp/medicalcenter.html>
Facebook <https://www.facebook.com/NHOKureSkillsLab/>

お問い合わせ・連絡先

呉医療技術研修センター 瀬川 久江
e-mail: segawa.hisae.va@mail.hosp.go.jp PHS 7099

防火訓練を終えて

呉医療センター附属呉看護学校 教員 奥田 真由美



令和5年4月28日、火災もしくは災害発生時、速やかに安全な場所へ避難する体験を行うことを目的に防火訓練を行いました。また1年生ははしご訓練、消火器・消火栓の使用も体験しました。

防火訓練は、夕方に学生寮で火災が発生したことを想定し行いました。学生は初期消火が困難であったため、一斉放送の指示に従い寮の自室や学校の教室から入船山公園多目的広場まで避難しました。事前に訓練時の注意点についてオリエンテーションを行っていたこともあり、学生は友達同士で話をせず、真剣な面持ちで落ち着いて行動できていました。また、避難場所に到着後、速やかに人員確認を行い報告もできていました。訓練を終えて、学生からは「実際に訓練を行って火災時に自分たちがどのように動けばいいのかイメージができた」「避難場所や避難経路を把握していくことが大切」「実際の火災時は焦るだろうけど、落ち着いて行動できるようにした



避難の様子



消火器体験

い」などの気付きがあり、訓練の必要性を改めて感じました。

はしご訓練は、学生寮の3階からはしごを使って1階まで降りる訓練です。3階から2階までは固定されたはしごを、2階から1階までは不安定なはしごを使って降りていきます。学生の中には高所やはしごの不安定さに恐怖を感じる人もいましたが、皆で声をかけあい行うことができました。消火器・消火栓の体験では、実際にそれらを使用することにより水圧や消火薬剤が火元まで到達する距離を実感することができていました。

今回、学生は防火に対して体験することでしか学ぶことができない貴重な経験をしました。防火訓練は1年に1回ですが、万が一、火災や災害などが行ったときは全員が確実に避難できるよう、学生たちには日頃から学校や寮における人員把握を怠らないよう心がけるとともに、経験を重ねていくことで防火に対して広い視野で考えることができるようになってほしいと思います。



はしご訓練



消火栓体験

第72回広島県看護学生スポーツ交流大会 / 第15回広島・呉地区大会を終えて

呉医療センター附属呉看護学校 2年生 面永 奈央

令和5年6月16日に開催された第72回広島県看護学生スポーツ交流大会 / 第15回広島・呉地区大会に参加しました。スポーツ交流大会参加は毎年の恒例行事でもあり、今年は「One team～距離は遠いが心は近くに～」というテーマで広島県下の看護師養成所8校が参加しました。

昨年と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインでの開催となりました。体育館での球技などは行えないことから、各校参加のキャプテン会議で事前に協議し、「ピラミッド競争」というオリジナルの競技を検討しました。150個のペットボトルのキャップを1分間で積み上げ、その積み上げた段数が得点となるルールです。学生で協力してキャップを集め、そして積み上げの作戦を立てて競技に挑みました。本番では最高13段積み上げることができ、みんなで楽しく競うことができました。また事前に作成した各校の「応援合戦」の動画を全員で鑑賞し、学生の代表が審査しました。競技とは別に「学校紹介」の動画の放映もありました。これら2本の動画作成においては、みんな



ピラミッド競争



各校で作成した動画の鑑賞

「スポーツ交流大会in呉」を企画・開催して

呉医療センター附属呉看護学校 3年生 垣内 月里

広島県下でのスポーツ交流大会の同日の午後に、同学年・他学年の交流と学校内の活性化を目的に「スポーツ交流大会in呉」を実施しました。「スポーツ交流大会in呉」は学生からの昨年度の発案をもとに準備期間を経て、実現することができました。全学年が交流でき、全員が楽しめるルールや方法を決めることは難しかったですが、多くの人の意見を取り入れ、試行錯誤することで無事開催することができました。

当日は梅雨を忘れる暑さの中、看護学校体育館と入船山公園多目的広場で競技を楽しみました。体育館での開会式後、応援団の演舞を鑑賞しました。応援団の生の演舞披露は4年ぶりで緊張したと思いますが、迫力があり感動的な演舞でした。その後、ドッジボール・バレーボール

を行いました。3学年を混ぜたチーム編成で、全学年協力し応援し合う様子が見られました。先生方も参加され、全員で悔しがったり、喜ぶことができました。どこの場所からも笑い声や盛り上げる声が聞こえていていつも以上に明るく活気がありました。スポーツ交流大会in呉を終え、「楽しかった、最高だった!」と話す多くの学生のさわやかな笑顔が心に残っています。私自身、この日は学校生活の大切な思い出の1つになりました。そしてスポーツ交流大会in呉を通して、私たちの提案を実現するためには、仲間と団結することはもちろん、先生方の協力が不可欠であると実感しました。たくさんの人の協力なくして、今回のスポーツ交流大会in呉は実現しなかったと思います。ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。



応援団の演舞



体育館でのバレーボール



多目的広場でのドッジボール

第56回学校祭を終えて

呉医療センター附属呉看護学校 2年生 石丸 さくら

令和5年6月24日第56回学校祭が行われました。今回は「Me+You ～僕たちは輝く～」をテーマに学内での開催となりましたが、限られた時間の中で学生3学年が力を合わせ準備に取り組みました。

当日、学生・教員が「縁日」や「イントロクイズ大会」などのブースで楽しんでいる姿を見て、これまでコロナで実施が難しかった時を思い、楽しい時間が共有できるようになり嬉しさを実感しました。また、午後の有志のステージではダンスや歌、バンド演奏など発表がありました。学校祭を行うまでは知らなかった仲間の姿を知ることができ、より一層、仲が深まったように思いました。学年を超えて声援を送り、楽しむみんなの姿はとても素晴らしかったです。看護学校の思い出の一つとして心に残るものとなりました。

今回、実行委員長であった私は、先生方や係の学生達に助けられ、無事に学校祭を迎えることができました。学校祭を通してみんなで協力すること、ひとつの事を成し遂げる事の大切さを学びました。Me+You “あなたがいることで2倍にも3倍にも強くなれる” “お互いが輝く存在”を表している姿のように見えました。これからの学校生活でも同じ道を目指していく仲間として団結し、互いに協力しあい成長していきたいと思ひます。

今年度は、学内での開催となりましたが、来年度は地域の方々をご案内し開催したいと計画していますので、楽しみにお待ちいただければと思います。



開会式の様子



縁日：射的



記念撮影コーナー



バンド演奏等

ナイチンゲール生誕祭実行委員になって

呉医療センター附属呉看護学校 2年生 大田 光咲

5月12日はフローレンスナイチンゲールの誕生日です。対象と接し看護とは何かを考えることを目的とし、ナイチンゲール生誕祭の行事として母体病院である呉医療センターに病棟訪問をさせていただきました。

今回は実行委員をさせていただき、ナイチンゲールの誕生花である「釣鐘草」を折り紙で作成し病棟へ飾らせていただきました。釣鐘草の花言葉は、「感謝」・「誠実」です。花束にも患者さまに癒しを感じていただくために、病棟や病室の彩りなどを考えて作成し、メッセージカード添付しました。また、多くの方々に学生のハンドベルの演奏を見ていただきたいと考え、ポスターを作成し、1か月程度、院内TVで放映して頂きました。患者さんや病院の皆様へ日頃の感謝と笑顔で過ごしていただきたいと願いを込めて取り組みました。



釣鐘草（折紙で作成）

看護学校 ナイチンゲール 生誕祭

看護学生による
ハンドベル演奏無料放映！
5月26日（木）より1か月間
病室TV12chにて視聴できます！
曲名「君をのせて」（『天空の城ラピュタ』より）
「海見える街」（『魔女の宅急便』より）



広報活動：ハンドベルTV放映

ナイチンゲール生誕祭当日は、呉医療センター20箇所、3年生が中心となって2年生・1年生でグループを組み、訪問させていただきました。3年生が花束を病棟師長へ渡し、2年生が作成したポスターを掲示させていただきました。実施後、学生から下記の感想が多く聞かれました。1年生は入学して初めての病棟訪問だったので、「緊張しましたが患者さんや病院の皆様へ挨拶することができました」、2年生は、「患者さまや病院の皆様へ日頃の感謝を伝えることができました」、「昨年は先輩についていだけで何もできなかったのですが今年は自己の成長を感じることができました」、3年生は、「心を込めて花束をお渡しすることができました」という感想です。

準備から当日までの取り組みの中でナイチンゲール生誕祭の目的である患者さんと接し看護とは何かを考えたことで、看護を志す自分自身と向き合うことができました。いつの日かナイチンゲールのような素晴らしい看護師になりたいと強く願い、これからの学習を頑張っていきたいと思ひました。



音楽部によるハンドベル演奏

緩和ケア研修会を開催して

緩和ケアセンター部長 砂田 祥司



緩和ケアとは、「生命を脅かす病（がんなど）に直面している患者とその家族のQOLを、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチ」です（WHO世界保健機関の緩和ケアの定義）。緩和ケアは終末期のみに行われるわけではなく、病気の時期に関わらず提供されます。また、緩和ケアはすべての医療従事者によって提供されます。

厚生労働省の定める「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した研修会を開催し、すべてのがん診療に携わる医師が受講して基本的な緩和ケアを学ぶことが、がん診療拠点病院に求められております。当院では、平成21年度からこの研修会を18回開催し、がん診療に携わる医師はすべて受講しています。

e-learningプログラム

必修科目	必修科目	選択科目
緩和ケア概論	気持ちのつらさ	がん以外の疾患に対する緩和ケア
全人的苦痛と包括的アセスメント	せん妄	その他の身体的苦痛に対する緩和ケア
がん疼痛	コミュニケーション	不眠
呼吸困難	療養場所の選択と地域連携	選択的放射線治療・神経ブロックによる症状緩和
消化器症状	ACP、看取りのケア、家族・遺族ケア	社会的苦痛に対する緩和ケア

集合研修プログラム

時 間	分	内 容	講 師
9:00～ 9:15	15	開催にあたって	砂田
9:15～10:00	45	e-learningの復習	砂田
10:10～12:00	90	コミュニケーション	大盛ほか
12:50～13:10	20	アイスブレーキング	砂田ほか
13:10～14:40	90	全人的苦痛に対する緩和ケア	砂田ほか
14:50～16:20	90	療養場所の選択と地域連携	砂田ほか
16:25～16:40	15	がん患者等への支援	砂田ほか
16:40～17:00	20	ふりかえりと修了式	砂田

参加者数

	第1回～18回	第19回
院内医師	307	12
他病院勤務医師	39	0
開業医	21	0

本年度は、5月27日に第19回の研修会を実施しました。この研修会のプログラムはe-learningによる事前学習後、330分以上の集合研修受講を必要とし、内容も全国统一の形式となっています。すべての単位を終了すると、厚生労働省健康局長名で修了証が授与されます。

今回は、12名の医師が受講しました。また看護師1名、薬剤師2名が受講しました。プログラムの半分が、ワークショップ・ロールプレイのため運営を行うスタッフは多数必要であります。受講者の活発な討議が行われ有意義な研修会が行われました。終了後のアンケートでも、「期待を上回る内容で良かった」「発言しやすい雰囲気良かった」等の良い評価をいただきました。



リフレッシュ研修の開催について

庶務係長 中山 裕文

今年度より呉医療センターでは職員を対象にリフレッシュ研修を開催することとなりました。研修と称していますが内容は出張ヨガ教室で、ここ数年続いたコロナ禍による職員のストレス・運動不足の解消を目的とし実施することとなりました。

講師には呉市中央でダンス、ヨガ、フィットネス教室の「スタジオG-1」を主宰しております五反田先生に来ていただいています。

4・5月に2回ずつ開催されましたが、各回ともに20名以上、多い時には50名近くに参加いただき非常に盛況に開催できました。

私自身初めてヨガを経験しましたが、予想していた以上にきつく体力を使いました。激しい運動をするわけではありませんが、色々なポーズを維持するのは思った以上に難しく最後には足が吊りそうになることもありました。ただ、運動不足の私でも最後までできたので、決して初心者には無理な運動ではありません。ヨガ初心者の方を想定した教室となっておりますので安心して参加できます。ヨガに興味のある方や運動不足を感じている方には非常にお勧めできる内容となっています。

6月以降も毎月1回開催する予定ですので、興味のある職員は是非ご参加ください。



永年勤続表彰

給与係長 宗内 佑樹

国立病院機構では毎年4月1日時点で、国立病院機構の職員としての在職期間の合計が満20年および満30年に達し、勤務成績が良好な者について、それぞれ「永年勤続20年表彰」および「永年勤続30年表彰」を行っています。

今年度は5月23日（火）に20年および30年勤務した職員について永年勤続表彰式を執り行いました。

当日は幹部職員列席の元、下瀬院長より表彰者一人一人に対して理事長名での表彰状と記念品が授与されました。

続いて下瀬院長が、これまでの職員に対する感謝の気持ちや病院のこれからに期待を寄せる言葉を述べました。

表彰された方々、永きにわたり国立病院機構の発展のためにご尽力頂き、ありがとうございました。今後とも国立病院機構の発展のため、引き続きよろしくお願い致します。



表彰者(20年)

職名	氏名
脳神経外科医長	伊藤 陽子
看護師長	西田香奈恵
副栄養管理室長	中尾 美恵
主任視能訓練士	栗崎 宏文
看護師	西林 愛
看護師	樽山 舞

表彰者(30年)

職名	氏名
企画課長	田中 光照
副看護部長	東 百合子
教員	天野 志保

記念撮影(20年)



記念撮影(30年)



「令和5年度呉医療センター特定行為研修」開講式の開催について

庶務係長 中山 裕文

当院では6月1日（木）に「令和5年度呉医療センター特定行為研修」開講式を行いました。（下記写真参照）当日は下瀬院長をはじめとした関係者及び受講生3名で執り行われました。

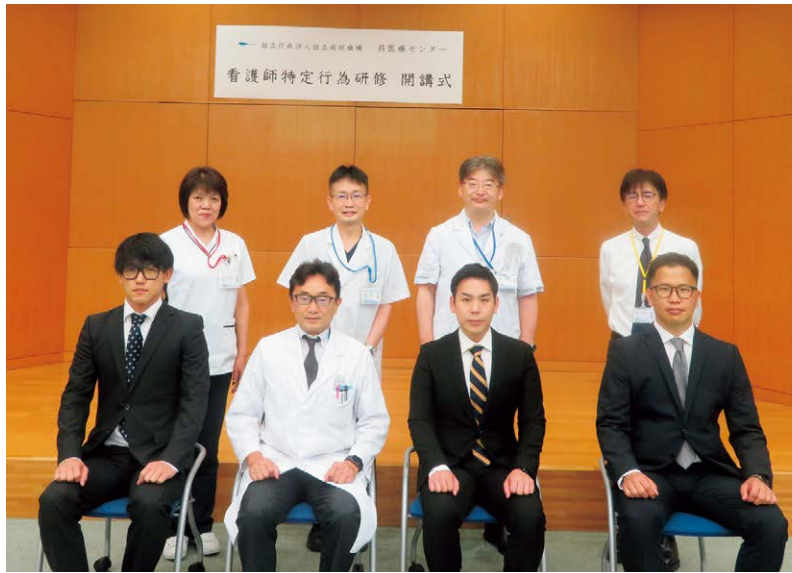
特定行為研修は当院では令和3年度より行っており、今年度で3回目の開講となります。

特定行為は38行為21区分に分けられた医療行為であり、当院では特定行為の中でも救急医療に関連した行為の研修（救急医療パッケージ）を行っています。また、今年度より栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連、通称PICCも開講することとなりました。どちらも看護師単独で行うことのできない医療行為であり、特定行為研修等を受講することで行うことができますようになります。

救急領域パッケージは当院看護師および広島赤十字・原爆病院看護師の2名が、PICCは広島記念病院看護師1名が受講いたします。

6月よりe-learnigシステムを用いた研修を実施し、10月から年度末まで実習を通して研修を行ってまいります。

今年度の研修を修了し、来年度から特定看護師として各病院の現場に出られるように、関係者一同努力して参ります。



【看護学校の広報活動】

ラッピングバス・ラッピング路面電車 只今運行中!!!

看護師を目指される方の目に留まれ〜呉看護学校！

私たちと一緒に学びませんか？

学校の歴史が感じられるえんじ色のデザインです。



ラッピングバスは、「クリアライン」と広島市内の「広電バス」「広島バス」で運行しています。



ラッピング路面電車は、「広島市内」を運行しています。

みなさま、どうぞご覧ください。

うちの部署の 接遇キラリさん



看護部
5B 病棟
看護師
村田 有希さん

5B 病棟は心臓疾患や腎臓の病気を抱えている患者さんが治療のため入院されています。時には病態があまりよくない患者さんもありますが、私は患者さんやご家族と関わる際に少しでも明るく、そして安心して入院生活を過ごせるよう、笑顔で関わることを日々大切に看護をしています。これからも患者さんとのコミュニケーションを大切に関わっていきたいです。

井上 5B 病棟看護師長より

村田さんは患者さんやご家族への声かけがとても優しく、相手がなにを伝えたいのかをしっかりと聞いているところが印象的です。自分の考えをしっかりと持ち、後輩へわかりやすいように教えている姿をみてとても頼もしく感じます。どんなときでも落ち着いて、一緒に働く仲間にも笑顔で接する村田さんにみんなが癒され、そして安心して頼れる存在です。



薬剤部
薬剤師
森島 智華さん

薬剤師の仕事は、薬剤の種類や投与量が適切か確認を行うことだと考えています。病棟では、他職種の方々と協力しながら、薬剤管理や患者さんへの服薬指導を行っています。薬を飲むことは、患者さんの日常生活に深く関わると思います。患者さんの日常生活に寄り添い、ひとりひとりに合わせた薬剤管理指導を行えるように業務に励んでいきたいと思っています。

藤田 薬剤部長より

森島さんは、入職二年目の薬剤師です。患者さんに対して常に笑顔で、わかりやすく丁寧な対応をしています。また後輩の新人薬剤師の指導にも熱心です。仕事に対してまじめに取り組む彼女の成長がとても楽しみです。



看護部
7A 病棟
看護師
中山 夢菜さん

私は4年目看護師です。急性期から終末期まで様々な患者さんの看護をする中で、患者さんが不安や悩みなど素直な気持ちを出しやすいように笑顔で挨拶して会話をすることを大切にしています。患者さんの意思を多職種で共有し、よりよい看護をこれからも提供していきたいです。

大塚 7A 病棟看護師長より

中山さんは、どんなに忙しくてもいつも笑顔とわかりやすい言葉で患者に対応しています。自然と笑顔がスタッフや患者に伝わるようなさわやかな看護師として現場で活躍され、7A病棟のとても大切な存在です。



看護学校
教員
小山 仁一さん

看護師は他の看護師や多職種、患者さんや家族など、様々な人と関わることの多い仕事であると実感しています。そのため看護師の接遇はとても大切であり、よりよい接遇を目指す第一歩として、私は特に「挨拶をする」ことを心掛けています。挨拶がきっかけで会話が広がり、「あなたには話しやすいわ。」とうれしい言葉を頂いたこともあります。令和5年4月より、看護教員として看護学生の教育に関わっています。まずは自分が「良い挨拶ができる人」としてお手本になれるよう努め、挨拶を通して今後社会に出て活躍する看護学生に接遇の大切さを伝えていきたいと思っています。

橋本 副学校長より

小山教員は、新任教員として初めて経験することに対しても意欲をもって臨んでいます。職場では、常に物腰柔らかかに、学生や職員にも接しています。自身の目指す看護教員に向けて呉看護学校を盛り上げてくれる一人として頑張っていたきたいです。

連携医療機関 紹介

早川クリニック 院長 早川 浩

早川クリニック院長の早川 浩です。私は平成17年3月に早川クリニックを呉市広大広に開業しました。この広大広の地は私の父が早川病院（現：ふたば病院）を開業した地であります。大変な山の中で、猪や狸が目撃されることも多く、「鳥啼いて山更に幽なり」といった風情のあるところです。敷地内にしだれ桜が2本あり、春には満開の桜の下で患者様とお茶会（薄茶）を催します。写真にありますように、5月には鯉のぼりを上げ、夏には花火大会、秋には運動会、冬にはクリスマス会を行っています。

当院は、精神科、心療内科を標榜する19床の有床診療所であり、3名の精神保健指定医、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士、介護士、栄養士など約80名のスタッフ（写真は一部）がいます。定員70人のデイナイトケアが2ユニット、定員50人のデイケアが1ユニットあり、精神科訪問看護を行っています。併設する共同住居もあり、精神障害の患者様で入院するほど病状は悪くないが、自分では生活できない方が入居され、デイナイトケアと精神科訪問看護を利用して生活されています。当院の理念はGood medicine, good life.であり、精神障害を持たれている患者様が少しでもいい生活が送れるように支援して

います。高齢の患者様を支援する隠居屋（我が家の屋号）というデイサービス、ホームヘルプ、居宅介護事業所を有する介護の会社とも連携しています。

国立病院機構呉医療センター・中国がんセンターには公私共に本当にお世話になっています。私の父や祖母が最後の時を迎えた病院であり、私も現在内科に通院中です。さらに、昭和60年から平成3年まで臨床研究部の山脇成人室長（現：広島大学名誉教授）にお世話になりました。当時、精神科医長であった岡本輝夫先生、国立がんセンターに行かれた内富庸先生、名誉院長である大村一郎先生にもご指導いただきました。

現在、精神科科長である町野彰彦先生には電気けいれん療法などで大変お世話になっています。身体合併症を持つ精神障害の患者様の受診では、救急外来の先生方、地域連携室の方々にもお世話になっています。転院された患者様は開放病床を利用して、ほぼ毎週、診察させていただいています。本当に感謝しています。今後も地域精神医療に貢献していきたいと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。



早川クリニック

〒737-0111 呉市広大広 2-7-4
院長 早川 浩

我が家の“スターたち”

前 晴稀くん

保護者コメント

園についたら“ぎゅっ”と力を入れてなかなか離れないはるき。だけど、さくら組さんでは1番のお兄さん。
「はるがやる!」が口ぐせで、お家でもご飯の準備や洗濯物を干したりと手伝ってくれます。園ではダンゴムシ探しに夢中。先生からエピソードを聞いてゾクッとする日も(笑)
あと9ヶ月の園生活、みんなと楽しく過ごしてね。



担任保育士のコメント

「はるできるよ!みて!」と三輪車をこいだり、虫をつかまえたり。ちょっぴりシャイだけど、本当はとってもパワフルなはるきくん!
「お片付けだよ」「手はおひざだよ」と教えてくれる、お兄さんの存在です。
お友だちの名前はもちろん、タオルやカバンまで覚えていて、びっくりさせられることもあります。残りのすずらん園生活、たくさんあそんで楽しい思い出を作っていこうね!

保護者コメント

お友達が大好きなゆづちゃん。入園当初から泣くことなく楽しんで園生活を送っているようで安心しています。
園でたくさん刺激を受けて、どんどん歩けるようになり、言葉もどんどん覚えて帰ってくるので、こんなこともできるようになったんだ!と驚いています。
歌も大好きで、お家でも口ずさんだり手遊びをやろうとしたり、一緒に歌うととても嬉しそうにしています♪園でもきっと楽しそうに歌ったり踊ったりしているんだろうなと想像しています。
これからもお友達と楽しく園生活を送ってね!



富永悠月ちゃん

担任保育士のコメント

お友達が大好きで、いつも楽しく遊んでいるゆづきちゃん。おしゃべりもたくさんできるようになって、いつもかわいい声を聞かせてくれます。
先生の真似っこをしてお友達の名前を呼んだり、「はい!」と元気よくお返事したりと、日々の成長が嬉しいです!
これからも明るく、元気いっぱいなゆづきちゃんと園生活を送れるのを楽しみにしています!たくさん思い出を作ろうね。

呉医療センターへご寄付をいただきました。

令和5年4月～6月に、寄付をいただきました。

◆ご寄付 一般社団法人 呉市医師会さま(臨床研究(病理研究)発展のため)
室尾 林医院さま(医療機関支援(患者・職員等に使用してもらうため))

みなさまからの気持ちのこもったご支援をありがとうございました。

編集後記

先日、呉医療センターと音戸の瀬戸との間をランニングで往復しました。音戸の瀬戸は、瀬戸内海の小さな海の街といった雰囲気、趣のある橋と古い町並みの融合が本当に素晴らしく、どこか懐かしさを感じました。帰りは、心地よい潮風と造船場からの作業音を感じながら海沿いを走り、「アレイからすこじま」ではれんが倉庫群の美しさと潜水艦、護衛艦の壮大さに足を止めました。疲労感も少なく呉の魅力をあらためて感じたランとなりました。(広報委員会 委員)